

カラー版 国際診療のための 小児科アトラス大事典

【編】 ユーサティーン／サベッラ／スミス／メイヨー Jr.／チャムリー／アパッチ
 【総監訳】五十嵐 隆
 【監訳】伊藤秀一／岡 明／賀藤 均／清水俊明／三牧正和
 ●B5判・上製・1088頁 【定価】本体 18,500円＋税 ISBN978-4-89013-490-8



我が国には画像と写真をふんだんに用いた
本書のような小児科の教科書は存在しない

● 西村書店 好評図書 ●

究極の免疫力は栄養。読み継がれる 世界的名著！

ロス 医療 栄養科学 大事典

健康と病気のしくみがわかる

【編】ロス／カバレロ／カズンズ／タッカー／ジエグラー
 【総監訳】稲垣暢也／中屋 豊 【監訳】佐々木 敏／田中 清
 ●B5判・1368頁 ◆本体18,000円＋税

▶初版刊行から60年以上の歴史を誇る、アメリカ発、世界的な栄養学のバイブル！ ▶基礎から臨床応用までを網羅。
 ▶疾病の栄養と栄養管理に関する最新の概念と実際的な問題についての新しいトピックスも紹介。
 ▶190人以上の専門家が執筆。▶カラー口絵収録。



問診の和文・英文併記

スワルツ 身体診察法 —病歴と検査—

【著】M.H.スワルツ 【日本語版監修】宮城征四郎／納 光弘
 ●B5判・664頁 ◆本体6,800円＋税
 米国医学界における身体診察法の第一人者によるテキスト。テクノロジーに依存しない旧式のアプローチを強調し、病歴聴取と診察の技術を各章ごとに配置。900点以上の症例写真、イラスト収録。



ママドクターからの 幸せカルテ 子育ても仕事も楽しむために

「予防接種は本当に安全?」「正しい育児法は?」「母親になるとはどういう意味?」小児科医ママが伝授。子育てに役立つ94のヒント!
 米国小児科学会刊行のエビデンスに基づく話題書。
 【著】W.S.スワンソン 【総監訳】五十嵐 隆 【監訳】吉田穂波
 ●四六判・504頁 ◆本体1,900円＋税



カラー版 内科学

【総編集】門脇 孝／永井良三
 【編集委員】赤林 朗／大内耐義／黒川峰夫／小池和彦／辻 省次
 長瀬隆英／藤田敏郎／森屋恭爾／山本一彦

●B5判・2004頁 ◆本体14,000円＋税

▶最先端でハイレベルなところまで踏み込んだアカデミックな内容。
 ▶疾患の概念・病態生理から診断・治療まで、わかりやすくしっかり解説。
 ▶薬理作用などのメカニズムなどの図版も加え、理解に貢献。
 ▶ふんだんな図表、ビジュアルに訴えるレイアウト!
 ▶全国の大学・基幹病院の第一線の専門医が執筆!

ポケット判 はこちら

いつでも使える持ち運べる!
 チーム医療のために!!

ポケット判 カラー 内科学

●B6判・2004頁 ◆本体4,900円＋税



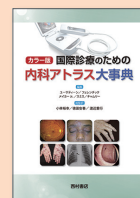
カラー版 国際診療のための 内科アトラス大事典

【編】ユーサティーン他 【総監訳】小林裕幸／徳田安春／渡辺重行
 ●B5判・1056頁 ◆本体18,500円＋税

診断における画像の重要性をふまえ、豊富な症例と、そこから得られた鮮明なカラー図版を多数収載。ポイントをおさえた記述で情報整理にも有用、鑑別疾患の記載も充実。真の内科医になるための海図!

小児科アトラス大事典の

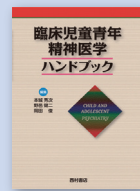
姉妹編



臨床児童青年精神医学 ハンドブック

【編集】本城秀次／野呂健二／岡田 俊
 ●B5判・544頁 ◆本体8,000円＋税

最新知見を中心に、生理学的過程に関する諸理論や多数の症例を呈示しながら、社会施策や政治・法的議論、リエゾン医療など関連する諸領域についても包括し、統一的にまとめあげた。



カラー版 国際診療のための

小児科アトラス大事典

2019年
1月発売

編 ユーサティーン／サベッラ／スミス
 メイヨー Jr.／チャムリー／アパッチ

総監訳 五十嵐 隆 国立成育医療研究センター 理事長
 東京大学名誉教授

監訳 伊藤秀一 横浜市立大学大学院医学研究科 発生成育小児医療学 主任教授
 岡 明 東京大学医学部 小児科 教授
 賀藤 均 国立成育医療研究センター 病院長
 清水俊明 順天堂大学医学部 小児科 教授
 三牧正和 帝京大学医学部 小児科 主任教授

小児医療を
学ぶ人にも、
教える人にも

●B5判・上製・1088頁
 【定価】本体 18,500円＋税 ISBN978-4-89013-490-8 C3047



本書の特徴

- ▶小児科医が診断力をつけるために最適な画像を集めた。臨床像のほか、X線像、CT像、MR像、内視鏡像、病理組織像など臨床現場に役立つ2,000点もの画像を掲載。
- ▶200以上の小児科疾患を「症例」「概説」「疫学」「病因と病態生理」「危険因子」「診断（臨床所見、検査所見、画像診断）」「鑑別診断」「治療」「予防とスクリーニング」「予後」「フォローアップ」「患者教育」などの各項に分け、要領よく記載。
- ▶基本的な内科疾患のほか、皮膚疾患、児童虐待、新生児・思春期それぞれに多くみられる疾患、遺伝性疾患なども網羅。
- ▶医師、看護師のほか、保健師、病棟保育士、チャイルドライフスペシャリスト、院内学級の教師など、小児医療関係者にも役立つ情報を収載。

対象

小児科開業医、研修医、全科医師、看護師、認定・専門看護師、
各種医療従事者養成機関、皮膚科医、病院図書室ほか



西村書店

〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-4-6 ☎ 03-3239-7671 Fax.03-3239-7622
 www.nishimurashoten.co.jp

取扱い書店

発行 西村書店

ご注文 FAX 03-3239-7622

カラー版 国際診療のための 小児科アトラス大事典

【定価】本体 18,500円＋税

☐ 冊 注文します。
 ISBN978-4-89013-490-8 C3047

お名前

お電話番号

ご住所 〒

必要事項をご記入の上、切り取ってお近くの書店でお申し込みください。直接本社にご注文の場合は、代金引換にて送らせていただきます。
 ＊ご記入いただいた個人情報は、注文品の発送、新刊等の案内以外には使用いたしません。

西村書店 〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-4-6 ☎ 03-3239-7671 Fax.03-3239-7622 www.nishimurashoten.co.jp

申込書

小児医療の subspecialty としての守備範囲は、内科に匹敵するだけでなく、それを越える subspecialty を含む広大なものである。小児医療の年齢対象も、従来の小児期に思春期から成人に至るまでの年齢を加えるなど、広がる傾向にある。さらに近年では、医師、看護師、保健師、病棟保育士、チャイルドライフスペシャリスト、院内学級の教師など、小児医療に関係する職種も多様化してきている。

そうしたなか、小児医療や小児疾患を理解するための教育的ツールとして、画像と写真（臨床画像、X線像、CT/MRI 像、病理組織像）をふんだんに用いた本書は極めて有益である。わが国には本書のような小児科の教科書が存在しない。そのため、本書を日本語に翻訳し世に出す価値は極めて高いと判断した。各疾患の理解にはその病態生理を知ることが重要だが、特徴的所見を言語からだけでなく、画像を通して理解することはきわめて有効である。質の高い画像と写真を満載した本書は、この点で他の類書の追隨を許さない。

本書は小児医療を学ぶ方だけでなく、それを教える方にも役に立つ教科書である。一人でも多くの方に利用していただけることを願う。

国立成育医療研究センター理事長 五十嵐 隆

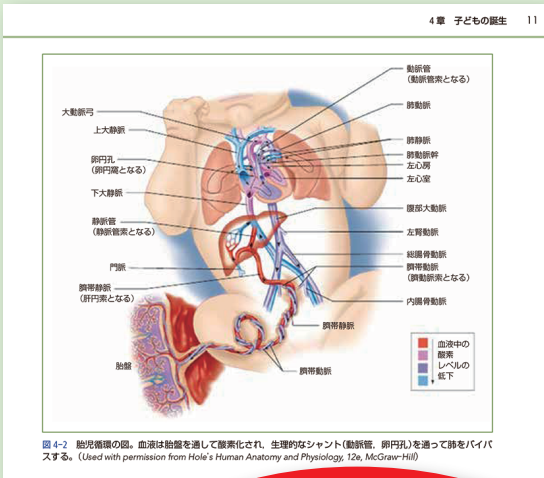


図 4-1 胎児循環の図。血液は胎盤を通して酸素化され、生理的なシャント（動脈管、卵円孔）を通過して肺をバイパスする。(Used with permission from Hole's Human Anatomy and Physiology, 12e, McGraw-Hill)

豊富な症例と 2000点を超える 優れた画像

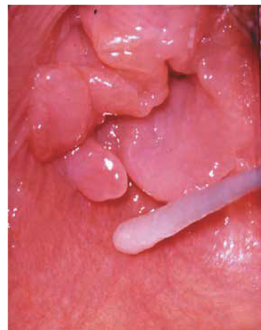


図 9-2 図 9-1 の女児で、先導を生理食塩水で湿らせた綿棒を用いて、処女線線を変動的に顔面し顔面に診察すると、処女線の範囲が可視化できる。この外傷は性的虐待によって起こり、注意深い診察をしなければ見過ごされていかなければならない。(Used with permission from Nancy D. Kellogg, MD)

● 身体所見をするときのツボ
 ● 肛門性器の視診は、腹背の直視の光源と拡大鏡を適切な診察体位と手技によって行うべきである。
 ● 腫瘍される診察体位は、仰向けに結尾または膝そしてうつぶせの胸腹位である。後者は仰臥位に認められた処女線線の後部腫瘍（仰臥位において4位置）を確認するのに特に重要である。
 ● 陰唇の分離や牽引（変動的に陰唇を外側下方へる）、うつぶせの胸腹位における臀部挙上、組織を分けるための綿棒の使用など多様な診察手技がある。
 ● 患者によっては、診察室が陰唇を吸引するときに、介助者が少量の生理食塩水を処女線の上に噴霧することは、折たたまたした処女線線をはがすのに有用である。
 ● 腫瘍による診察や綿棒で処女線線を確認することは、思春期前の女児には侵襲的な処置であり、行うべきでない。
 ● ほとんどの肛門外傷は、肛門裂を侵襲的に広げることによって確認できる。
 ● 虐待を懸念させる身体所見は以下のとおりである⁹⁾。
 ● 処女線、処女線周囲組織、肛門の擦過傷やあざ（図 9-3、9-4）
 ● 処女線後面の急性または治療過程の裂傷で、処女線基部あるいは前庭後部に伸びている、または近いもの（図 9-2）
 ● 肛門のあざや裂傷（図 9-5）
 ● 強制的な口腔内挿入行為の痕跡と、軟口蓋の点状出血やあざ

● 検査と画像所見

目次

第 1 部 画像やデジタル写真から学ぶ

- 1 章 患者管理、学習、教育の強化に役立つアトラス
- 第 2 部 小児医療のエッセンス
- 2 章 医師と家族の関係
- 3 章 患児および家族中心のケア
- 4 章 子どもの誕生
- 5 章 子どもの緩和ケア
- 6 章 社会的公正
- 7 章 グローバルヘルス

第 3 部 身体的および性的児童虐待

- 8 章 身体的児童虐待
- 9 章 性的児童虐待

第 4 部 眼疾患

- 10 章 麦粒腫と霰粒腫
- 11 章 角膜異物と角膜上皮剥離
- 12 章 結膜炎
- 13 章 プドウ膜炎と虹彩炎
- 14 章 先天性鼻涙管閉塞
- 15 章 斜視と偽斜視
- 16 章 網膜芽細胞腫と白色瞳孔の鑑別診断
- 17 章 眼窩隔膜前（眼窩周囲）蜂窩織炎
- 18 章 眼窩蜂窩織炎
- 19 章 眼外傷：前房出血

第 5 部 耳鼻咽喉疾患

- 1 節 耳
- 20 章 副耳
- 21 章 外耳道炎
- 22 章 中耳炎：急性中耳炎と滲出性中耳炎
- 23 章 乳突蜂巣炎

24 章 耳の異物

- 2 節 鼻・副鼻腔
- 25 章 鼻茸
- 26 章 副鼻腔炎
- 27 章 副鼻腔炎合併症
- 3 節 口と咽喉
- 28 章 猩紅熱とイチゴ舌
- 29 章 咽頭炎（上気道感染症を含む）
- 30 章 急性上気道閉塞
- 31 章 慢性上気道閉塞：喉頭軟化症
- 4 節 頸部
- 32 章 甲状舌管嚢胞およびその他の頭頸部腫瘍
- 33 章 リンパ節腫脹
- 34 章 頭頸部の先天奇形

第 6 部 歯科・口腔外科系疾患

- 35 章 地図状舌
- 36 章 乳幼児う蝕
- 37 章 歯科的な合併症：硬組織（歯）
- 38 章 歯科的な合併症：軟組織（歯肉と粘膜）
- 39 章 単純ヘルペスウイルス性歯肉口内炎
- 40 章 アフタ性潰瘍

第 7 部 循環器系疾患

- 41 章 ばち状指、チアノーゼ
- 42 章 非チアノーゼ性先天性心疾患
- 43 章 チアノーゼ性先天性心疾患
- 44 章 感染性心内膜炎

- 45 章 急性リウマチ熱
- 46 章 頻度の高い不整脈疾患
- 47 章 心疾患を合併する先天奇形症候群

第 8 部 呼吸器疾患

- 48 章 細気管支炎
- 49 章 喘息と呼吸機能検査
- 50 章 市中肺炎
- 51 章 嚢胞性線維症
- 52 章 先天奇形

第 9 部 消化管疾患と栄養障害

- 53 章 発育不全
- 54 章 食道疾患：胃食道逆流症と好酸球性食道炎
- 55 章 消化性潰瘍
- 56 章 異物誤飲
- 57 章 幽門狭窄症
- 58 章 腸重積症
- 59 章 炎症性腸疾患
- 60 章 セリアック病
- 61 章 新生児胆汁うっ滞症
- 62 章 肛門および直腸障害
- 63 章 小児の栄養障害

第 10 部 腎・泌尿器疾患

- 64 章 尿沈渣と尿路感染症
- 65 章 水腎症と尿管腎盂移行部狭窄
- 66 章 多発性嚢胞腎
- 67 章 ネフローゼ症候群
- 68 章 腎炎症候群
- 69 章 溶血性尿毒症症候群
- 70 章 小児の腎結石
- 71 章 腎血管性高血圧

第 11 部 新生児の疾患

- 72 章 新生児結膜炎
- 73 章 腹壁欠損

第 12 部 思春期における疾患

- 74 章 膿炎の総論
- 75 章 思春期女性における外陰部の潰瘍性病変
- 76 章 細菌性膿瘍
- 77 章 カンジダ外陰膿瘍
- 78 章 トリコモナス膿炎
- 79 章 クラミジア頸管炎
- 80 章 思春期における乳房腫瘍
- 81 章 タトゥーとピアスの合併症

第 13 部 筋骨格系疾患

- 82 章 肘内障
- 83 章 鎖骨骨折
- 84 章 前腕骨折
- 85 章 中足骨骨折
- 86 章 内反足
- 87 章 発育性股関節形成不全（先天性股関節脱臼）
- 88 章 Legg-Calvé-Perthes 病（Perthes 病）
- 89 章 大腿骨頭すべり症
- 90 章 Osgood-Schlatter 病
- 91 章 脊柱側弯症

第 14 部 皮膚疾患

- 1 節 幼児期
- 92 章 乳児期の生理的皮膚変化
- 93 章 小児期における血管腫と血管奇形
- 94 章 幼児期の膿疱性疾患
- 95 章 おむつかぶれと肛門周囲皮膚炎
- 2 節 瘡瘻
- 96 章 尋常性ざ瘡
- 97 章 酒さ
- 98 章 化膿性汗腺炎

3 節 細菌性

- 99 章 膿瘍
- 100 章 毛嚢炎
- 101 章 点状角質融解症
- 102 章 紅色陰瘡
- 103 章 蜂窩織炎
- 104 章 膿瘍
- 105 章 ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群
- 106 章 壊死性筋膜炎
- 107 章 壊疽性膿瘍

4 節 ウイルス性

- 108 章 水痘
- 109 章 帯状疱疹
- 110 章 眼部帯状疱疹
- 111 章 麻疹
- 112 章 伝染性紅斑（第 5 病）
- 113 章 手足口病
- 114 章 単純ヘルペス
- 115 章 伝染性軟属腫
- 116 章 尋常性疣贅
- 117 章 扁平疣贅
- 118 章 性器疣贅
- 119 章 足底疣贅

5 節 真菌

- 120 章 真菌総論
- 121 章 カンジダ症
- 122 章 頭部白癬
- 123 章 体部白癬
- 124 章 股部白癬
- 125 章 足白癬
- 126 章 癬菌

6 節 寄生

- 127 章 シラミ
- 128 章 疥癬
- 129 章 皮膚幼虫移行症

7 節 皮膚炎／アレルギー性

- 130 章 アトピー性皮膚炎
- 131 章 接触皮膚炎
- 132 章 ヘルペス性湿疹
- 133 章 貨幣状湿疹
- 134 章 蕁麻疹と血管性浮腫

8 節 丘疹鱗屑性

- 135 章 脂漏性皮膚炎
- 136 章 乾癬
- 137 章 パラバセ糖疹
- 138 章 扁平苔癬
- 139 章 光沢苔癬と線状苔癬

9 節 良性新生物

- 140 章 若年性黄色肉芽腫
- 141 章 ケロイド
- 142 章 膿原性肉芽腫
- 143 章 良性母斑
- 144 章 先天性母斑
- 145 章 表皮母斑と胎脂母斑
- 146 章 異形成母斑
- 147 章 小児黒色腫

11 節 浸潤性免疫学

- 148 章 環状肉芽腫
- 149 章 壊疽性膿皮症
- 150 章 小児サルコイドーシス

12 節 過敏性と薬剤への反応

- 151 章 多形紅斑、Stevens-Johnson 症候群、中毒性表皮剥壊症
- 152 章 結節性紅斑
- 153 章 血管炎
- 154 章 皮膚の薬剤反応

13 節 水疱性

- 155 章 小児期の慢性水疱性疾患
- 156 章 天疱瘡
- 157 章 その他の水疱性皮膚疾患

14 節 毛髪と爪の異常

- 158 章 円形脱毛症
- 159 章 牽引性脱毛症と抜毛癖
- 160 章 正常な爪とその異型
- 161 章 色素性爪疾患
- 162 章 陥入爪
- 163 章 爪真菌症
- 164 章 爪囲炎
- 165 章 爪乾癬
- 166 章 爪下血腫

15 節 色素異常

- 167 章 白斑と色素脱失症
- 168 章 色素沈着を主徴とする疾患

16 節 遺伝性

- 169 章 遺伝性皮膚症
- 170 章 血管およびリンパ管奇形
- 171 章 魚鱗癬

第 15 部 リウマチ性疾患

- 172 章 若年性特発性関節炎
- 173 章 全身性エリテマトーデスと皮膚エリテマトーデス
- 174 章 若年性皮膚筋炎
- 175 章 IgA 血管炎（Henoch-Schönlein 紫斑病）
- 176 章 周期性発熱症候群
- 177 章 川崎病
- 178 章 強皮症とモルフェア

第 16 部 感染症

- 179 章 消化管感染症（下痢を含む）
- 180 章 淋菌感染症

181 章 梅毒

- 182 章 小児 HIV 感染症
- 183 章 ライム病
- 184 章 EBV 感染症（伝染性単核球症）
- 185 章 毒素性ショック症候群
- 186 章 小児結核
- 187 章 先天性および周産期感染症
- 188 章 人獣共通感染症

第 17 部 内分泌疾患

- 189 章 糖尿病の概要
- 190 章 黒色表皮腫
- 191 章 甲状腺機能低下症
- 192 章 甲状腺機能亢進症
- 193 章 高脂血症と黄色腫
- 194 章 肥満
- 195 章 Cushing 症候群
- 196 章 Addison 病
- 197 章 先天性副腎過形成
- 198 章 くる病
- 199 章 思春期遅発症
- 200 章 思春期早発症

第 18 部 神経疾患

- 201 章 頭痛
- 202 章 Bell 麻痺
- 203 章 硬膜下血腫
- 204 章 脳血管障害
- 205 章 結節性硬化症
- 206 章 神経線維腫症
- 207 章 Sturge-Weber 症候群
- 208 章 Duchenne 型筋ジストロフィー

第 19 部 血液疾患・悪性腫瘍

- 209 章 鉄欠乏性貧血
- 210 章 免疫性血小板減少性紫斑病

211 章 鎌状赤血球症

- 212 章 神経芽腫
- 213 章 Wilms 腫瘍
- 214 章 ランゲルハンス細胞組織球症

第 20 部 アレルギーおよび免疫疾患

- 215 章 アレルギー性鼻炎
- 216 章 DiGeorge 症候群
- 217 章 原発性線毛機能不全症
- 218 章 B 細胞免疫不全症
- 219 章 SCID（重症複合型免疫不全症）とその他の原発性免疫不全症
- 220 章 慢性肉芽腫症

第 21 部 遺伝性疾患

- 221 章 Down 症候群
- 222 章 Turner 症候群
- 223 章 Marfan 症候群
- 224 章 Ehlers-Danlos 症候群
- 225 章 骨形成不全症
- 226 章 Noonan 症候群
- 227 章 PHACE 症候群
- 228 章 色素失調症候群

第 22 部 薬物乱用

- 229 章 薬物乱用による疾患

付録

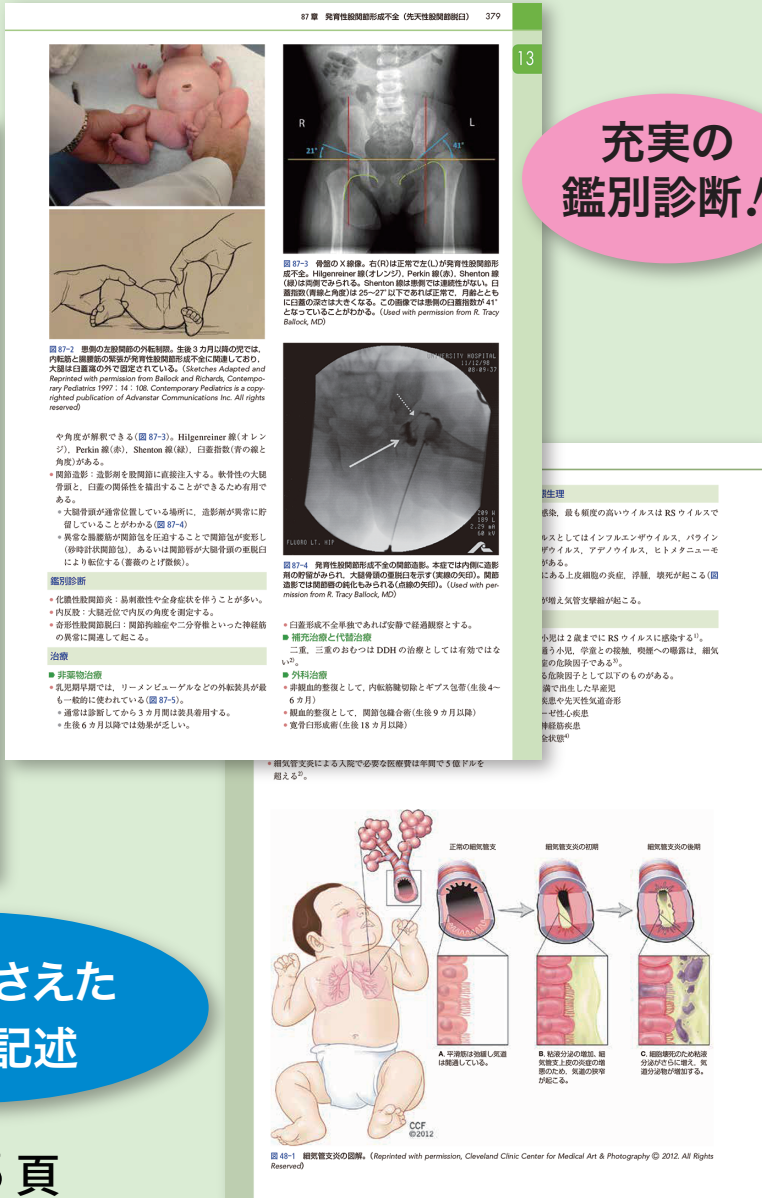
- A 科学的根拠に基づく医療（EBM）の解釈
- B ステロイド外用薬の局所、病変部への投与

内容見本



要点をおさえた 明快な記述

総 1088 頁



充実の 鑑別診断！